

国際共同研究事業 令和 5(2023)年度実施報告書

令和 6 年 4 月 30 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

政策研究大学院大学・政策研究科

[職・氏名]

教授・飯塚倫子

[課題番号]

JPJSJRP 20211701

1. プログラム名 英国との国際共同研究プログラム(JRP-LEAD with UKRI)

2. 研究課題名

(和文) ワクチンのためのイノベーションと補完的能力

(英文) Innovation and complementary capabilities for vaccines

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 30 日(3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Institute of Development Studies, University of Sussex・Research Fellow and Cluster Leader・Anabel Marin

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

本研究の目的であるワクチンの生産、流通を可能とする技術・組織力以外の企業の能力について明らかにするべく、本年度は、各国において共通の質問表に基づきヒヤリング調査を行ない、結果を取りまとめた。ワクチンは研究、製造、輸入(材料含む)、流通過程のみならず薬価、健康保険制度の適用、臨床データの取り扱いなど、国の制度・規制によって影響を受ける特殊な「財」である認識のもと、各国によるヒヤリングを行った。

(1) 文献レビュー、共通インタビュー調査票作成

4 月、5 月の間、チーム内の若手研究者(Tran Son Tung氏)に依頼し、Regulatory Capability—企業や国レベルでの制度・規制を管理する能力について先行研究のレビューを行った。これら結果と英国の方で担当をしていたイノベーション能力と経営学的観点からのレビューをもとに、分析・概念の枠組みを作り、国別インタビューを行うための調査票を完成させ、インタビューの準備を行った。

(2) アドバイザーと打ち合わせ

インタビュー開始にあたり、日本側のアドバイザーである東京大学大学院新領域創生科学研究科の加納信吾先生と 5 月に打ち合わせを行ない、インタビューの訪問先、内容、近年のワクチンに関わる議論についての助言をいただいた。

(3) インタビューの開始

日本チームは、日本、ベトナム、インドネシアの3カ国でヒヤリングを行った。日本のインタビューは 6 月から開始した。関係者へのインタビュー、特に企業へのインタビューは開発中のワクチンについての質問であるため、ヒヤリングのスケジュール調整にかなり時間を要した。最終的に日本では 20 機関、25 人にインタビューを行った。

(4) ベトナム、およびインドネシアカウンターパートのインタビューへの参加

ベトナム、およびインドネシアにおいても同様に、大学研究機関や政府、民間へのインタビューを行った。この間、国別比較を行うため、チームリーダーである飯塚が現地ベトナム(9月4日から9月9日)およびインドネシア(9月10日から14日)に出張した。現地のカウンターパートと共に訪問先を回り、議論を行った。これは各国のインタビュー情報を担当者間で共有することにより、今後の国別比較を行う際のレファレンスとすることが目的である。

なお、ベトナムでは 3 機関、インドネシアでは 9 機関を訪問することができた。

(5) 学会(インド)でのインタビュー結果の中間発表と打ち合わせ

10 月 12 日から 14 日にインド(ケララ州トリバンドリウム)で開催された、GLOBELICS International Conference 第 20

回記念大会に、日本チームは飯塚が参加し、インドネシアからは BRIN の Dr. Rahmi Lestari をインドに招聘し参加いただいた。ベトナムから Mr. Tung Tran も招聘する予定であったが、同氏はケガにより不参加となったため、日本チームの発表は、日本とインドネシアのケースのみとなった。

なお、英国チームからは Dr. Anabel Marin と Dr. Amrita Saha が参加し、10 月 12 日の “Firm and Country Level Innovation Capabilities in Biological Medicines: Differences That Matter” というセッションにおいて、プロジェクトの概要説明と国別事例（日本、イギリス、インドネシア、アルゼンチン）の中間報告を行った。特別パネルには、プロジェクトメンバー以外にも、インドやその他の学会参加者も参加し、活発な質疑応答が行われた。

GLOBELICS は途上国におけるイノベーション研究ネットワークであり、グローバルサウスといわれる途上国からの研究者が多く参加している学会である。学会の公募（4月）に対し、プロジェクトチームとして特別セッションに応募し、受理されたものである。

この学会の開催中、英国チームと日本チームはミーティングを行ない、これまでのインタビューの進捗状況と今後の作業計画を確認した。

(6) インタビューメモの収集、カントリーレポートの執筆

ワクチンのように各国の規制によって管理されている製品は、市場化することが難しい。また、製品の利用も健康な人々が予防のために利用する点で、通常の創薬と大きく異なる。さらに、本研究の対象は、特にパンデミックという特殊な状況下でのワクチン製造における企業の補完的能力ということであり、通常と異なるさまざまな政府の介入や企業の能力が必要とされる。このような点を踏まえて、現在、インタビュー結果を分析し、まとめているところである。国ごとにインタビューの進み方が異なるため、今年度はインドネシア、アルゼンチン、ベトナムのインタビューメモがいち早く完成し、インタビュー結果を踏まえた国別レポートを作成した。なお、日本の事例はインタビューメモを作成し共有されているが、国別レポートの作成は来年度初旬に行う予定である。英国、インド、ブラジルの事例は、現在インタビューメモが作成されている段階である。全体のインタビューをまとめた最終レポートについては、来年度初旬に完成を予定している。

(7) Orbis データなど他のデータを活用した量的分析

英国チームを中心に Orbis データ、パテントデータ、その他インターネット上で入手できるデータを活用し、政治的な能力についての分析を進めている。この結果は、来年度とりまとめる予定である。

(8) 英国側との連絡・打ち合わせ

英国と日本の間で毎月一度、オンラインによる研究の進捗状況についての打ち合わせを行っている。

(9) 若手研究者の英国派遣

今年度は、日本チームの若手研究者 (Postdoc) である伊藤紗也佳氏を英国に派遣し、英国側の研究者と交流するこ

とが予定されていたが、同氏が神奈川県立保健福祉大学から、大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 (PRIME) に所属を変更したことに伴い、さまざまな調整が必要となり、来年度へ計画を延期した。なお、同氏とは、英国で行う研究内容について3月3日から6日に打ち合わせを行った。

7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

通番	共著の有無*1	著者名、論文標題等*2
1		
2		
3		

[学会発表]計(1)件 うち招待講演 計(0)件

通番	共著の有無*1	発表者名、発表標題等*2
1	無	Michiko Iizuka “Firm and Country Level Innovation Capabilities in Biological Medicines: Differences That Matter”: Case of Japan GLOBELICS International Conference 2023, Thiruvananthapuram, Kerala, India 12 October 2023

[図書] 計(0)件

通番	共著の有無*1	著者名、著書名等*2
1		

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

[出願] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	

[取得] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	

* 必要に応じて、欄を追加してください。